

特集「金刀比羅神社物語」より



幻の亜麻栽培

北海道で繊維用の亜麻が栽培されたのは明治22年からで、幕別に亜麻工場が設けられたのは明治39年である。

亜麻の作付面積の増減は戦争と密接な関係があった。猿別地区で亜麻工場建設に着手したときには日露戦争が終わり、需要が減り、作付面積も減少。

大正3年の第一次世界大戦から再び作付面積が増え、昭和6年の満州事変、昭和14年の止若亜麻工場新設まで増え続け、ピーク時にはかなりの面積だったと思われる。しかし軍需工場だったゆえに、その記録は軍の機密事項であり詳細は残っていない。

戦後、亜麻の需要が減り、さらに化学繊維の進出もあって操業が困難となり、昭和42年が最後の亜麻の作付となった。翌年には工場も閉鎖され、幕別の亜麻栽培は幻となった。

町民文芸

まくべつ

第15号・1999